

音楽学習における絵図や写真の活用について

— スペインの音楽教科書より —

桐原 礼

The utilization of pictorial diagrams and photographs for music learning; Spanish music textbooks

Aya KIRIHARA

Abstract

This study examines the benefits of pictorial diagrams and photographs for music learning, analyzing Spanish music textbooks, the contents of companion CD-ROMs and practical cases.

The merit of the learning method using pictorial diagrams and photographs is the fact that it contributes to build musical knowledge. By using the items and symbols, which are familiar to children, to resemble tones and notes, an explanation with a simpler expression can be given than in the case of using information of charts described in a language or staff notation. Also, working on a quiz, using pictorial diagrams and photographs, can increase children's desire to learn. Thus, pictorial diagrams and photographs help children to obtain the visual information of music and to store it as their knowledge.

Key-words

music textbooks, utilization of pictorial diagrams and photographs, Spain

要約

本研究においては、スペインの音楽教科書および付属CD-ROMの内容、実践事例の分析を通して、音楽学習において絵図や写真を活用する利点について検討した。

絵図や写真を活用した学習の良さは、音楽的な知識の定着を促すことにある。子どもたちの身近な物やシンボルを音や音符に見立てることで、言語や五線譜による楽譜の情報よりも分かりやすい表現で説明がなされるためである。また、絵図や写真を用いたクイズ形式での作業により、子どもたちの学習意欲を高めることができる。このように絵図や写真は、子どもたちが視覚的に音楽に関する情報を得て、それらを自らの知識としていくことに役立てられる。

キーワード

音楽教科書、絵図・写真の活用、スペイン

1 はじめに

我が国における教育課題として、今後一層、子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視し、学習の基盤を構築していくことが求められている。音楽科教

育においては、新学習指導要領において新たに共通事項が定められ、音楽に関わる用語を音楽活動の中で活用できる知識として、子どもたちに定着させていくことが重要視されている。こうした状況において、音楽教科書は

今後どのように有効活用されていくのであろうか。

スペインの音楽教科書においては、我が国の音楽教科書と比べて楽譜の掲載が少なく、絵図や写真を多く用いているという特徴がある。また、音楽室には電子白板が設置されている学校が多い。子どもたち各自で教科書を開くのではなく、教科書付属CD-ROMによって電子白板に映し出される図や楽譜を見ながら演奏を行う場合もある。またCD-ROMは、子どもたちの家庭学習用として、自宅のコンピュータで簡単に操作することができる。

本研究においては、音楽学習における絵図や写真の有効な活用について検討することを目的とする。スペインの音楽教科書より、Alhambra社の小学校6学年分の教科書を取り上げる⁽¹⁾。教科書および付属CD-ROMの内容、実践事例⁽²⁾の分析を通して、音楽学習において絵図や写真を活用する利点について明らかにしたい。

2 音楽教科書の概要

(1) 学習内容の分類

スペインの音楽科教育における活動領域は、学習指導要領において「聴取 (Escucha)」、「演奏と音楽づくり (Interpretación y creación Musical)」のように設定されており、我が国とほぼ同様と考えられる。各出版社それぞれの音楽教科書の目次において、この二つの領域からさらに細分化された分類が載せられている。Alhambra社の目次には、楽典 (Lenguaje de la Música)、歌 (Canción)、楽器 (Instrumentos)、鑑賞 (Audición)、舞踊 (Danza) のような分類がみられる。各学年とも80ページ弱あり、6つのユニットから構成されている。

(2) 付属CD-ROMについて

Alhambra社では、教科書内容と連携したCD-ROMが各学年の教科書に付属しており、6学年共通して、「鑑賞曲」、「楽器」、「音楽理論」、「パズル⁽³⁾」(図1)、「カラオケ」の部門に分かれている。

音楽理論に関する部門、楽器に関する部門の各学年における詳しい内容は以下である(表1)(表2)。この他に、1～4年生用では、音楽が流れている間に「塗り絵⁽⁴⁾」を楽しむ機能がある。また5、6年生用では、

カードに書かれた曲名と作曲家の肖像画を合わせる「カルタ」のような形式や、流れている曲と作曲家を関連づけるクイズの部門がある(図2)。「パズル」、「塗り絵」、「カルタ」をしている間は関連楽曲が流れているため、繰り返し教科書で扱っている曲を聴く機会ともなり得る。

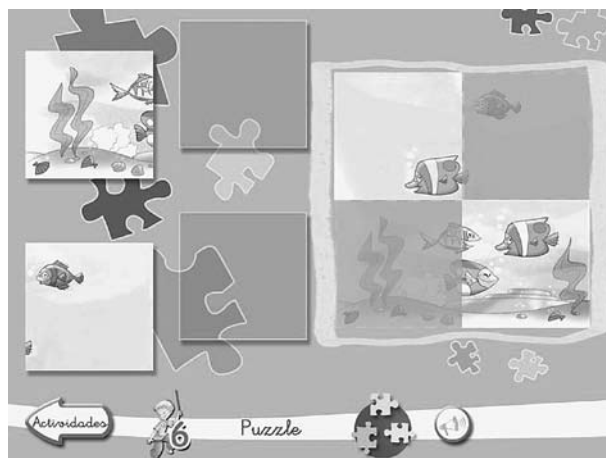


図1. 《水族館》(サン＝サーンス作曲)の情景を描いた挿絵のパズル(1年CD-ROM)



図2. 曲と作曲者を関連づけるクイズ(5年CD-ROM)

ここより先は、絵図や写真の活用が多くみられる学習として、読譜、楽器、鑑賞に関する活動について検討していく。

	ユニット1	ユニット2	ユニット3	ユニット4	ユニット5	ユニット6
1年	家の周りの音	音楽室の音	動物の鳴き声	街中や公園での音	動物園や遊園地の音	夏らしい音
2年	家の中の音	音楽室の中の音	公園での音	街中の音	世界の様々な音	海辺の音
3年	リズム・パターン(絵)	3種の打楽器によるリズム・パターン	木琴による様々な音程	ミソ2音による音程	ミソラ3音による音程	3音による音程
4年	リズム・パターン	音階ド〜ド	4音によるふしのパターン	リズム・パターン	4/4拍子の楽譜を書き写す	2/4拍子の楽譜を書き写す
5年	8小節の曲のふし当て	リコーダーの音ド〜ド	4/4拍子の楽譜を書き写す	3/4拍子の楽譜を書き写す	曲の中のふし当て	8分音符の穴埋め
6年	リコーダー曲6小節のふし当て	リコーダー曲19小節のふし当て	4/4拍子の楽譜を書き写す	2/4拍子の楽譜を書き写す	曲の中のふし当て	3/4拍子の楽譜を書き写す

表1. CD-ROMの内容：音楽理論に関する学習

	ユニット1	ユニット2	ユニット3	ユニット4	ユニット5	ユニット6
1年	様々な生活音	打楽器5種	動物の鳴き声5種(擬声語・音の高低)	打楽器10種(木製・金属製・革製)	木琴・鉄琴・グロッケン	弦楽器・吹奏楽器・打楽器10種
2年	ボディー・パーカッション4種	打楽器14種	木琴・鉄琴・グロッケン	打楽器6種	バイオリン・リコーダー・太鼓	楽器で奏でる曲
3年	ボディー・パーカッション5種	打楽器12種(木製・金属製・革製)	木琴による6種のふし	弦楽器5種	吹奏楽器3種	様々な楽器10種
4年	ボディー・パーカッションの組み合わせ	木製・金属製・革製の打楽器16種	様々な楽器の音8種	様々な楽器8種	5種の楽器の組み合わせ	弦楽器・吹奏楽器・打楽器15種
5年	木製・金属製・革製の打楽器17種	擦弦楽器・撥弦楽器・鍵盤楽器8種	打楽器・擦弦楽器12種	吹奏楽器(木製・金属製)10種	弦楽五重奏の楽器	器楽演奏形態6種
6年	木製・金属製・革製の打楽器21種(調律・無調律楽器)	リコーダーの音	弦楽器・吹奏楽器20種(木製・金属製・革製)	打楽器・擦弦楽器・撥弦楽器・吹奏楽器22種	弦楽器10種(オーケストラ楽器・民俗楽器)	吹奏楽器11種(オーケストラ楽器・民俗楽器)

表2. CD-ROMの内容：楽器に関する学習

3 読譜に関する学習

(1) 音符とリズム

低学年から中学年においては、リズム・パターンや簡単な音程について学び、高学年では音階やふしの聴取、記譜の能力を身につけるような学習内容が挙げられる。こうした中で、音と休符、音の長さや強弱、音符やリズムの種類などについて、ボディー・パーカッションを行ったり言葉にリズムをのせるなど、絵や図を参考にしながら自らの身体を通して学ぶ活動が多くみられる。

言葉にリズムをのせる活動を通して、4分音符や8分音符など音符の種類、記譜の仕方について認識することができる(図3)。単語と音符を組み合わせたリズム譜を見ながら、自分の名前や短い歌詞に手拍子や足拍子などを入れる。二人組みの手遊びで行ったり、歩く(4分音符)、走る(8分音符)、止まる(休符)のように身体表現を示した絵もみられる。こうした音符やリズムに関する絵図は、主として低学年に多くみられるが、中学年

や高学年においても様々な表現で示されており(図4)、絵にあらわれた特徴を読み取り、音符やリズムのきまりについて再認識させる機会となっていると考えられる。



図3. 言葉と音符の組み合わせ(1年、p.54)



図4. 跳ねる、歩く、走る（音符の種類）（4年、p.40）

また、to（2分音符）・ta（4分音符）・titi（8分音符）などのリズム唱も低学年から行われており、絵と単語の組み合わせによって、視覚的にそれぞれの特徴をとらえることができる（図5）。




to	ta ta	ti ti ti ti
pez 	ri-o 	pes-ca-do-res 

図5. リズム唱（2年、p.39）

中学年においては、拍子に関する内容が多くみられる。これらの絵には、それぞれの拍子の構造が分かりやすく示されている。例えば、以下の絵は、花や鳥の見た目の大きさや数によって、2拍子と3拍子の違いや音符の種類について一目で分かるようになっている（図6）。

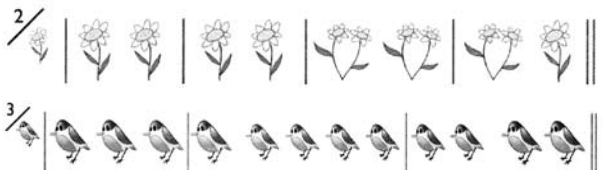


図6. 2拍子と3拍子（3年、p.42）

このように音符やリズムについて段階的・継続的に学ぶ中で、4年生あたりから記譜の活動がみられるようになる。付属CD-ROMには様々な拍子による記譜の練習課

題があり、音符の種類を選んで五線譜上の正確な高さに音符を置いていく（図7）。間違った音符や場所を選択すると、不正解音で知らせてくれる機能となっている。



図7. 記譜の練習（4年CD-ROM）

(2) 音階

音の高低については、1年生において、自分の名前など単語の抑揚に音程をつけ、木琴や鉄琴で演奏する活動がみられる（図8）。「ミ」「ソ」から始め、3音、4音と音の数を増やしていく中で、低学年においては木琴や鉄琴を中心として旋律の演奏を行う。ハンドサインにて音階を確認しながら、3年生後半よりリコーダーの学習が始まる。



図8. 「ミ」「ソ」を言葉の抑揚に合わせる（1年、p.54）

音階について学ぶ際にも、付属CD-ROMのクイズを利用することができる。A小学校2年生の音楽授業において、子どもたちは教師の説明ではなく、電子白板のリコーダー君から五線譜のきまりに関する説明を聞き（写真1）、その後に音当てクイズを行う場面があった。電子白板にて、五線譜上の音符の音を子どもが答える（指でミソラのどれかを押す）と、正解または不正解を示す言葉があらわれ、最終的に何問正解したかを教えてくれる仕組みになっている（写真2）。教師が「他にやりたい人は？」と聞くと、子どもたちは「やりたい！」

と皆で手を挙げ、楽しみながら取り組んでいる様子であった。

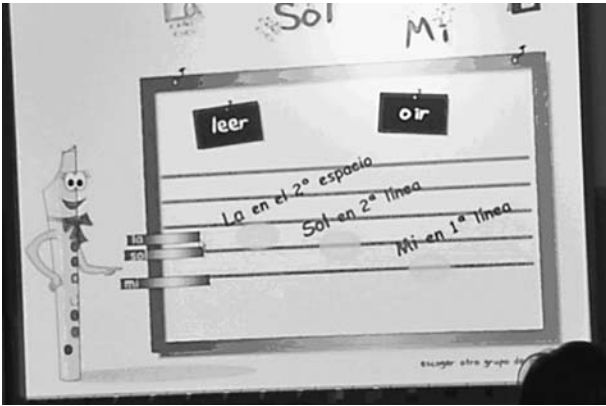


写真1. 五線譜の説明 (A校にて筆者撮影)

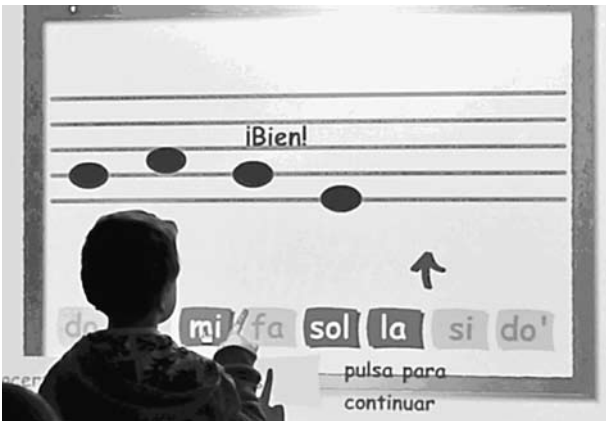


写真2. 音あてクイズ (A校にて筆者撮影)

4 楽器に関する学習

低学年において身の回りの音や小打楽器からはじめ、次第に数を増やしながら、楽器の音と名前を合致させ認識していく。

打楽器、ボディー・パーカッション（手拍子・足拍子・指鳴らし・ひざ打ちほか）、鍵盤楽器、リコーダー、オーケストラ楽器、民族楽器が扱われており、第6学年においては20種以上の楽器について取り上げる。この際、低学年より、木製・金属製・革製の素材、弦楽器（擦弦楽器・撥弦楽器・鍵盤楽器）・吹奏楽器など奏法に関わる分類について学び始め、次第に楽器の種類が増えていくとともに、細かい分類について学んでいく。

例えば、6年生の付属CD-ROMにおける楽器クイズでは、多様なオーケストラ楽器と民族楽器が取り上げら

れている。一つの楽器について3つの穴埋めがあり、楽器の名称、奏法の分類（弦楽器または吹奏楽器）、素材の分類（木製または金属製または革製）について、一つずつ音を聴きながら選択していく。3つの答えがすべて揃ったところで、正解音または不正解音が流れる仕組みになっている。（図9）



図9. 楽器クイズ (6年CD-ROM)

授業中にこうした楽器の分類について学ぶ際には、電子白板の利用により、楽器の写真と演奏を組み合わせた視聴覚情報が役立つ。B小学校5年生の音楽授業では、弦楽器の擦弦楽器・撥弦楽器・鍵盤楽器の分類を学ぶ際に、電子白板を活用していた。教員に指名された子どもたちが電子白板上の音声ボタンにタッチすると、その楽器の演奏が流れる機能があり、音楽が流れている間、全員でその楽器の弾き方を真似する場面がみられた（写真3）。その後は、ボタンを押して音楽が流れている間に、教員が教室内を歩いたり座ったりしながら楽器を真似ると、子どもたちは教員についてまわりながら、皆夢中に



写真3. ハープを弾く真似をしている様子 (B校にて筆者撮影)

なって表現していた。電子白板の利用により、楽器の名称および分類と楽器それぞれの音色や奏法について、合わせて認識していくことを可能としていた。

5 鑑賞に関する学習

(1) 鑑賞活動のパターン

各学年のそれぞれのユニットにおいて、1～2曲の鑑賞活動が設定されている。鑑賞活動のパターンとして、以下の6つに分類した。

1. 曲の冒頭から終わりまでの音を示した図形譜（音楽図）を指でたどる、2. ストーリー性のある楽曲について各場面の情景を表した挿絵を見る、3. 鑑賞曲に合わせて身体表現をしたり打楽器演奏をする、4. 鑑賞曲の情景をあらわした挿絵に塗り絵をする、5. ストーリーを示す絵をたどる、6. 楽曲の冒頭または一部の楽譜を見ながら聴いたり演奏する（表3）。ここでは特に、図形譜およびストーリーを示す絵をたどる活動について紹介したい。

1. 図形譜をたどる	2. 挿絵・写真を見る	3. 他活動との組み合わせ
<ul style="list-style-type: none"> ・＜シンコペーテッド・クロック＞ アンダソン作曲（2年） ・「くるみ割り人形」より＜中国の踊り＞ チャイコフスキー作曲（2年） ・＜マーチop.99＞プロコフィエフ作曲（3年） ・＜ドイツ舞曲＞モーツァルト作曲（4年） ・＜タイプライター＞アンダソン作曲（4年） ・＜ペニスの謝肉祭＞ チャイコフスキー作曲（4年） ・「四季」より＜春＞ヴィヴァルディ作曲（4年） ・＜剣の舞＞ハチャトゥリアン作曲（5年） ・「プルチネルラ」より＜ガヴォット＞ ストラヴィンスキー作曲（5年） ・＜ウィーンの音楽時計＞コダーイ作曲（5年） ・＜ロミオとジュリエット＞ チャイコフスキー作曲（6年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「ピノキオ」より＜かっこう＞（3年） ・「動物の謝肉祭」より＜森の奥のかっこう＞ サン＝サーンス作曲（3年） ・＜春の歌＞メンデルスゾーン作曲（3年） ・＜バリのアメリカ人＞ ガーシュイン作曲（3年） ・＜くまのしるし＞シュベルト作曲（5年） ・＜青少年のための管弦楽入門＞ ブリテン作曲（6年） ・交響詩＜青い百合のために＞ ロドリゴ作曲（6年） ・「スペインの庭の夜より」 ＜コルドバの山の庭にて＞ ファリャ作曲（6年） ・＜操り人形の葬送行進曲＞グノー作曲（6年） 	<p>【身体表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くるみ割り人形」より＜行進曲＞ チャイコフスキー作曲（1年） ・＜トリッチ・トラッチ・ポルカ＞ ヨハン・シュトラウス2世作曲（3年） ・くるみ割り人形より＜花のワルツ＞ チャイコフスキー作曲（3年） <p>【打楽器演奏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「動物の謝肉祭」より ＜カンガルー＞＜雌鶏と雄鶏＞ ＜ラバ＞＜カメ＞＜大きな鳥籠＞ サン＝サーンス作曲（1年） ・＜アラ・ホーンパイプ＞ ヘンデル作曲（5年）
4. 塗り絵	5. ストーリーを示す絵をたどる	6. 楽譜の一部を用いる
<ul style="list-style-type: none"> ・＜おもちゃのシンフォニー＞ レオポルド・モーツァルト作曲（1年） ・「四季」より＜春＞ ヴィヴァルディ作曲（1年） ・「動物の謝肉祭」より＜耳の長い登場人物＞ サン＝サーンス作曲（2年） ・＜小さな白いロバ＞イベール作曲（2年） ・「動物の謝肉祭」より＜水族館＞ サン＝サーンス作曲（2年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・＜ベルシャの市場にて＞ ケテルビー作曲（2年） ・＜スケーター・ワルツ＞ ワルトイフェル作曲（3年） ・＜ウィリアム・テル＞ロッシニ作曲（4年） ・「くるみ割り人形」 チャイコフスキー作曲（4年） ・「ピーターと狼」プロコフィエフ作曲（4年） ・＜魔法使いの弟子＞デュカス作曲（4年） ・「ペール・ギュント」グリーグ作曲（4年） ・交響曲「田園」第4楽章＜雷雨、嵐＞ ベートーベン作曲（5年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・＜ラデツキー行進曲＞ ヨハン・シュトラウス2世作曲（5年） ・＜大学祝典序曲＞ ブラームス作曲（6年）

表3. 鑑賞曲と活動のパターン

(2) 図形譜（音楽図）

低中学年に限らず高学年においても、鑑賞曲の冒頭から終わりまでを図に示した図形譜が扱われている。他出版社の教科書においても同様の手法がみられることから、スペインの鑑賞活動においては一般的な方法であると考えられる⁵⁾。以下に、教科書に掲載されているいくつかの例を紹介したい。

2年生で扱われている＜中国の踊り＞の図形譜は、

ピッコロによる旋律（上段）、弦楽器のピッツィカートによるリズム（中段）、低音のリズム（下段）で構成されており、指でたどりながら最後まで聴くことができる（図10）。子どもたちが図を正確にたどろうとする中で、ピッコロの上下する旋律の揺れや弦楽器のピッツィカートの音、それぞれの楽器の音色などを聴取することができる。

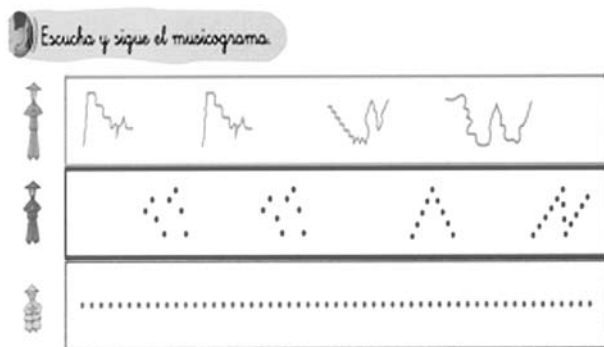


図10. 《中国の踊り》（一部）（2年、p.56）

4年生の音楽教科書に掲載されている《タイプライター》の図形譜には、タイプ音（太い横線）、バル音（▲）、紙を巻く音（●）が示されており（図11）、主として打楽器音の聴取を行う。速度が速い曲の流れの中で、タイミングよくバル音や紙を巻く音を指差すことで、シンコペーションのリズムにのりながら聴くことができる。



図11. 《タイプライター》（一部）（4年、p.34）

5年生で取り上げられている《剣の舞》の図形譜には、この曲に出てくる様々なオーケストラ楽器のうち、より曲の雰囲気の特徴づけていると思われる楽器の音が表示されている（図12）。打楽器、吹奏楽器、弦楽器のそれぞれの旋律や音色の雰囲気などが図と写真にあらわれているため、指で図形譜をたどりながら、それぞれの楽器の特徴についてとらえることができる。

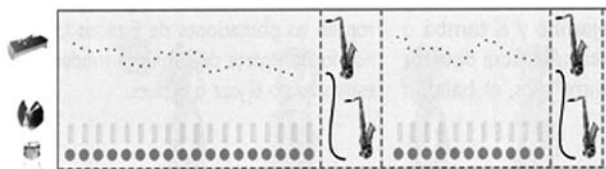


図12. 《剣の舞》（一部）（5年、p.11）

(3) ストーリーを示す挿絵

ストーリー性のある楽曲について扱う場合に、各場面の情景を表した挿絵を見ながら鑑賞をすすめるパターンである。一曲につきおよそ10場面の挿絵があり、各場面に簡単な説明文がついている。《パール・ギェント》、《ウィリアム・テル》、《クルミ割り人形》など、長いストーリーのある楽曲の全体像を知ることができる。4年生教科書の《ピーターと狼》の10枚の挿絵には、登場人物や動物を示す楽器が描かれており、音楽を聴きながらそれぞれの楽器の音色を聴取することもできるであろう（図13）。また、低学年においては、挿絵が塗り絵になっているものもあり、2年生の《ペルシャの市場にて》では、11枚の挿絵のうち8枚に塗り絵ができる。楽曲の登場人物や情景などに興味を持たせ、飽きさせずに音楽を聴く時間をとるための工夫であると考えられる（図14）。



● Pedro, con la ayuda del pájaro y el gato, intenta atrapar al lobo.



● Llegan los cazadores tras el rastro del lobo.

図13. 《ピーターと狼》（一部）（4年、p.31）



図14. 《ペルシャの市場にて》(一部)(2年、p.44)

6 おわりに

本研究においては、スペインの音楽教科書を取り上げ、音楽学習において絵図や写真を活用する利点について検討した。

絵図や写真を活用した学習の良さは、音楽的な知識の定着を促すことにあると考える。具体的には、第一に、言語や五線譜による楽譜の情報よりも、分かりやすい表現で説明がなされる点である。子どもたちの身近な物やシンボルを音や音符に見立てることで、音楽への理解を促進することができる。この際、音楽を「難しい」と思わせずに、子どもたちがスムーズに活動に参加できるという心理的効果も大きいのではないだろうか。第二に、絵図や写真を用いたクイズ形式での作業により、子どもたちの学習意欲を高めることができる点である。クイズという遊びの要素を取り入れることで、楽しみながら繰り返し学習することができる。このように、絵図や写真の活用は、子どもたちが視覚的に音楽に関する情報を得て、それらを自らの知識としていくことに役立てられる。

スペインの音楽教科書の絵図やクイズには遊び心が感じられ、子どもたちの心を弾むような効果があるのではないだろうか。スペインの音楽授業を観察してみて、音楽室の楽器は我が国ほど豊富でなく、ボディーパーカッションや小打楽器の多用、電子白板を駆使した授業に、音楽教員が大変慣れている様子であった。また、子どもたち個々の表現の豊かさに驚かされた。楽器などのスキルの高さによるものではなく、自らの身体をフルに使い、伸び伸びと音楽を表現している姿である。ここには、音楽を難しくとらえず、楽しむものとして関わっている雰囲気があった。

我が国の音楽科教育において、子どもたちの音楽的な知識に関する基礎・基本の確実な定着を図っていくためにも、児童生徒にとってより分かりやすい説明が求められるだろう。今後一層、音楽教科書における絵図や写真の活用について検討していくことが有効であると考ええる。

(1) 訪問した2校の音楽授業においてAlhambra社の教科書が用いられていたため、本研究の分析対象として選択した。ANAYA社、sm社の音楽教科書も、Alhambra社と同様に楽譜の掲載が少なく絵図や写真が多く用いられているため、スペインの音楽教科書の一般的な傾向と考えて良いのではないだろうか。なお、教科書の付属資料は各社でそれぞれ異なっており、Alhambra社のような形式のCD-ROMが一般的かどうかは不明である。ANAYA社、sm社のものには、音楽ワークブックおよび教科書の掲載曲が収録されたCDがついている。

スペインにおいては、我が国のような教科書検定制度はみられず、小学校音楽教科書は多数出版されている。これらの教科書は、2年ごとに2学年ずつ改訂され、教科書選択は教員に任されている。教科書の値段設定およびページ数は様々で、一冊およそ1500円程度であり、教科書購入は個人負担の場合と、自治州および市町村による助成金によって一部または全額がまかなわれる場合がある。(スペイン人音楽教員への聞き取りより)

- (2) 2011年3月、スペイン南東部のムルシア県ムルシア市内の2つの小学校を訪問し、音楽授業を観察した。写真やビデオ撮影前に、授業担当の音楽教員に許可を得た。また、本論文に掲載した写真(子供や教員の顔が写っているもの)に関しては、当該教員に直接相談し、顔の判別ができないよう写真を加工するという条件で掲載許可を得た。
- (3) 教科書の挿絵がパズルになっており、関連曲が流れている間にパズルを完成させる。この際、間違った場所にピースを置くと不正解音が鳴る。
- (4) 教科書の挿絵が塗り絵になっており、マウスで色を選択し、関連曲が流れている間に、コンピューター上で塗

り絵を楽しむことができる。

- (5) 筆者が13年前に同じくムルシア市内の小学校音楽授業を訪れた際にも、同様の図形譜（当時は模造紙に音楽教員が描いたもの）を用いて鑑賞学習を行っていた。

【文献】

- ・ 桐原礼 (2011) 「スペインの音楽教科書にみる身体表現の取り扱いについて」 全日本音楽教育研究会大学部会『会誌』 pp.2-11.
- ・ Gregorio Vicente Nicolás 『*Movimiento y danza en Educación Musical: un análisis de los libros de texto de Educación Primaria.*』 Universidad de Murcia. 2009
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 1 Música.*』. 2008
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 2 Música.*』. 2007
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 3 Música.*』. 2007
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 4 Música.*』. 2009
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 5 Música.*』. 2008
- ・ Pilar Pascual Mejía 『*La batuta mágica Educación Primaria 6 Música.*』. 2008
- ・ REAL DECRETO 1513/2006, de 7 de diciembre, por el que se establecen las enseñanzas mínimas de la Educación primaria. BOE num. 293. 2006

